

中国地方遠征登山で百名山 99 座目の大山へ

山行日： 10 月 20 日～25 日

参加者： 鴨志田

工程：大山 ； 1 日目 大山寺駐車場 10:27－大山 12:23－元谷避難小屋 13:51

2 日目 元谷避難小屋 6:05－象ヶ鼻 7:53－三鈷峰 8:04－振子山 9:00－野田ヶ岳 9:42
－大山寺駐車場 12:57

三瓶山 西登山路登山口 7:52－男三瓶山 9:10－女三瓶山 9:57－大平山 10:17－孫三瓶山 10:45－
子三瓶山 11:15－登山口 12:18

比婆山 立烏帽子駐車場 6:46－池の段 7:26－比婆山 8:12－烏帽子山 8:24－吾妻山 9:23－烏帽子
山 10:18－毛無山 11:16－駐車場 13:31

蒜山 登山口 8:24－下蒜山 10:43－中蒜山 12:00－蒜山 12:46－上蒜山 13:11－中蒜山 13:53－
登山口 15:06

大山

前夜に東京駅を出たサンライズ出雲は予定通りに米子駅に 8 時過ぎに到着した。その足で駅前のレンタカー屋で車を借りて、大山の大山寺駐車場についたのは、米子到着から 2 時間強をへた 10 時すぎであった。登山開始が 10 時 27 分で夏山登山道にて、頂上にはお昼過ぎに到着し、百名山の 99 座目をゲット

することができた。頂上を後にして、14 時前に計画通りの今夜の宿となる元谷避難小屋に到着した。3 時過ぎには本日の朝飯と昼飯と夜飯の兼用にいつものように 1.5 合の米を炊き、缶詰をおかずに、ビールとウイスキーで 17 時前には大山北壁に抱かれた元谷避難小屋で一人寂しく就寝していた。



大山北壁

翌朝、関東と比べて朝が遅い避難小屋で明るくなるのを待って、6 時に避難小屋を出て、破線の登山道崩落の通行注意箇所の上宝殊越をひよいと超え、北壁を眺めながら主稜線で有る象ヶ鼻に抜けて、三鈷峰を頂いた。稜線上のユートピア避難小屋を覗き、大山の南壁にいたく感動を覚えながら、紅葉の盛りである振子山、野田ヶ山を経て、周回をてくてく歩き、登山口に無事到着した。



大山南壁

三瓶山

200 名山の三瓶山（さんべさん）南麓の女夫松登山口から眺めると、頂上はガスがかかる 2 つの連山であったが、いざ山中に入り、主峰の男三瓶山、女三瓶山を巡ると、説明に太古に溶岩円頂岳（トロイデ火山）とあり、中央の火口を囲んだ外輪山であったことは判明



男三瓶山と子三瓶山

した。外輪山は、男三瓶山に右回りに、女三瓶山、太平山、孫三瓶山、子三瓶山をへて、男三瓶山で周回する。三瓶山の火口の紅葉は、まだ早い状態であったが、登山道周辺は、イワウメ、野菊、アキノキリンソウ、山なでしこ、マツムシソウやジュウモンジソウの花が見られた、景色及び花が見られた、いい山であった。

比婆山

300 名山（本当の 300 名山は吾妻山）の比婆山（ひばやま）は、その山の名の響きから一度は行ってみたい山であった。前日に、三瓶山を後に、比婆山の登山口であり、本日の宿となる立烏帽子避難小屋に車を進めると、遙か遠くに一際高く、真っ赤に紅葉した大きな山容が見え隠れし、間違いなく比婆山であると確信した。駐車場の中心に避難小屋があり、車は 14 時過ぎのためか 3 台のみであったが、すぐに 2 台の車が去り、自分だけのまたもや寂しい避難小屋泊まりであった。小屋に入ると、やることなく、またもや昼飯と夕食の兼用となるカップラーメンを食べてビールとウイスキーでいつものように 17 時前



池の段

には就寝である。次の朝は 5 時ごと目が覚め、いつもながら、山では長い時間（今回は 12 時間）よく眠れる。不思議である。比婆山は、古事記に関連する遺跡である、イザナミノミコトの隠れ穴や御陵、イザナミノミコトを祀った命神社（みことじんじゃ）があった。山は、紅葉盛で、特に池の段の低木のホツ

ツジが真っ赤に色ついていた。駐車場に戻ると、朝と違って変わって、車が一杯で、一部の車は車道に駐車された状態であった。



蒜山

蒜山（ひるぜん）は、東西に延びて、東から下蒜山、中蒜山、上蒜



下蒜山への稜線

山からなり山系で、今回は、中蒜山への塩釜の冷泉近くの駐車場に車を置いて、中蒜山の登り、初めに下蒜山にピストンし、次に上蒜山をピストンし、中蒜山から駐車場に登ることとした。中蒜山の登りは、いきなりの直登で、一気に稜線まで登るハードな登山道であった。稜線まで上がると下蒜山も上蒜山の小気味良い高低差のある、快適な縦走路であり、路の長さを感じさせないものであった。紅葉した各々の山容を眺めながら快晴のなか、楽しい縦走を行えた。



中蒜山、上蒜山、大山